

質問（18条関連）

18条 床スラブ P.281 について施工時荷重を考慮した検討について御教示ください。

- ①先端荷重として RC 手摺壁を受ける片持ちスラブについても、2.1×床スラブ自重に対し短期許容応力度以下であることの確認でよいでしょうか。それとも、先端荷重の RC 手摺壁も含めて 2.1 倍するのでしょうか。 計算例を示して頂けますとありがたいです。
- ②文献 12)に依ると 2 層受けで 2.1 倍とのことなので、最上階の屋根及び床については $t = lx/10$ として問題ないでしょうか。

（匿名希望）

回答

①先端荷重として RC 手摺壁を受ける片持ちスラブの施工荷重については、RC 手摺壁も含めて 2.1 倍としてください。具体的な計算方法については、本会 JASS5 の「9.10 型枠の存置期間」を参照してください。ここで示されている計算例は周辺固定スラブですが、RC 手摺壁を 2.1 倍した施工荷重を先端荷重として作用させて検討してください。

②最上階の床スラブについては、上階への支保工設置による施工荷重を受けないことから、施工荷重に対する検討は不要であり、片持ちスラブ厚さは $t = lx/10$ 以上で問題ありません。ただし、片持ちスラブは 18 条にも示されているとおり、たわみが応力に対して相対的に大きく、曲げモーメントに対して十分余裕のある設計を行うとともに、スパンが大きい場合はその影響がさらに大きくなることから、長期たわみを直接算定して確認することを推奨します。